

# 第8回 商工会女性部全国大会 (新潟大会)

## 女性部代表 4,200余名が集う



平成十七年十月四日～五日、「変革から躍動へ！女性のパワーで今はばたくTOKI」をスローガンに、第8回商工会女性部全国大会(新潟大会)が新潟市で開催され、全国から女性部代表者四二〇〇余名が参加した。大会は来賓多数の臨席のもと、六ブロックからの代表による主張発表のほか、榊タイラ代表取締役の平博氏が「商いの道は人の道」と題した基調講演を行い、盛會裏に終了した。

### ■来賓祝辞

#### 望月中小企業庁長官祝辞要旨

中越地震の大きな被害を乗り越えて確実に復興を遂げている新潟県で、全国にネットワークを張る商工会女性部の全国大会が開かれるのは大変意義深いことと思います。中小企業庁では、事業の再生、人材の育成を図り地域経済を発展させていくことが、明日の日本の重要な問題であると捉え、創業塾などを通じて起業の推進を行っているところです。



今大会で女性部員の皆さんの意見を頂戴し、その生の声を行政に役立てていきたいと考えております。女性部が大会の成果を生かしつつ、地域経済の発展に尽力するよう期待します。

### ■挨拶

#### 清家全国連会長挨拶要旨

新潟県では、昨年の集中豪雨や新潟県中越地震で多くの方々が被災されたにもかかわらず、当大会の開催にご尽力いただき、感謝に堪えません。お見舞い申し上げますとともに、被災地の日も早い復旧・復興をお祈



り申し上げます。

さて、これからの商工会も女性部も、未来に向けて躍動しなければなりません。この大会での出会いを通して、地域の活性化を図り、次世代を担う子供たちが生まれれば、これに勝る喜びはありません。全国連といえども、年末の政府予算案の決定に向けて、小規模事業対策のより一層の充実に働きかけてまいる所存です。

#### 岩村新潟県連会長挨拶要旨

大震災から一年が経過しましたが、女性部はじめ全国の商工会関係者の方々から心温まるご支援をいただき、復興に向けて大きな励みとなりました。新潟が震災にめげず元気に頑張っている姿をご覧いただくとともに、皆様のご好意に感謝を申し上げ、心温まる新潟らしい大会にしたいとの気持ちで大会を開催させていただきました。大会が実り多いものとなり、女性部の発展につながることを祈念申し上げます。



#### 及川全女性連会長挨拶要旨

甚大な被害を受けた中、関係者の熱意により、立派に大会を開催できましたことに、心から感謝を申し上げます。私たちが女性部員が地域で活躍し、それが地域活性化の原動力となり、地域を元気に、そして日本経済全体を元気にしていただければ、これ以上の喜びはありません。今大会で情報交換や意見交換等を積極的にに行い、組織の活性化と自己研鑽に役立てていただきたいと思えます。



■主張発表要旨

最優秀賞

■小さな地域でも手をつなぎあがって

秋田県由利本荘市商工会女性部 伊東順子

「一人暮らしや体の不自由な方など、手助けを必要とする人のために、出前システムのお店をやりましょう」というボランティア活動に熱心な奥さんからの誘いでスタートしたのが「にこにこ市」です。

小規模で野菜を作っているお年寄りからは新鮮で安全な野菜を安く、女性部員の仕出し屋さんからはすぐ食べられるパック詰めのお惣菜やご飯類、洋服店さんには下着やちよっとしたおしゃれのできる洋服などを提供してもらい、出前組と店組に分かれたメンバー九人で開店しました。出前組は、歩行の困難



左から：辻田朝子、泉千秋、伊藤美佐子、田川典子、伊東順子、高橋慶子 各氏

な方を対象に、商品を持ち込んで手にとつて選んでいただくとともに、会話の時間も十分にとり、楽しんでいただけるよう心がけました。野菜は、地元幼稚園や小・中学校の給食に使っていただけられるようになった

うえ、「今日のニンジンには、二年三組の佐藤良子さんのおばあさんが作ったニンジンです」と校内放送もしてくれます。家に帰ったお孫さんの報告で会話も明るくはずみ、おばあさんも一層張り切るようになったそうです。

協力してくれる方も増えましたし、出会う人からは「元気でいたよ」と声をかけてもらい、充実感一杯です。小さな町の小さな活動でも、お互いが手をつなぎ合うことで、何倍もの力が発揮でき、商業者にとつても、必ずプラスになると信じています。

優秀賞（発表順）

■小さな島の小さな女性部がまもる

一島一村一家族の心

大分県姫島村商工会女性部 高橋慶子

大分県国東半島の沖、瀬戸内海にぽっかり浮かぶ小さな島が姫島です。主産業の漁業は厳しく、島の商店は、船の運賃がかさみ、島の商店にはとても太刀打ちできません。商工会女性部は、最高齢者九一歳を筆頭に四〇歳までの三一名で構成、平均年齢は六八歳。強い仲間意識が自慢です。

姫島村では、「一島、一村、一家族」という昔からとてもすてきな言葉があります。島内結婚が多く、全住民が血縁や顔見知りのため、「お互いに助け・助けられ」の精神で支え合ってきました。風土や生活に深く関わりながら、商工業者であるとともに一住民でもあることを商業活動に生かしていくことが、過疎・高齢化社会で生き残るポイントです。

島民の購買意欲を高めなければなりません。若い女性のアイデアと感覚が必要です。若い女性部員の

勧誘に努め、女性ならではの利点や組織力を生かして、優しさや温かさ・思いやりのある個性豊かな地域の商店としていこうと思っています。

現在、姫島村は、地域の二大イベントの「姫島かれい祭」や「お魚祭」など、漁業と共存共栄できる観光の振興を図っています。これまで以上に観光客にも目を向け、心のこもった接客で交流人口を増やし、緑豊かな島の活性化を図っていききたいと、小さな島の小さな女性部は頑張っています。

■空き缶回収機設置を目指して

栃木県芳賀町商工会女性部 田川典子

芳賀町商工会女性部は、平成十三年度から「環境にやさしいリサイクル事業」に取り組みしました。散乱ゴミをなくす、リサイクルする、消費者の流出を防いで地元商店街の活性化につなげるのが目的です。この事業に欠かせない空き缶回収機購入のため、三年間アルミ缶回収事業を行いました。アルミ缶を回収して資金を作ろうと考えたのです。アルミ缶を持ってきてくれたお客様に三角くじによる「お楽しみ抽選会」をしようと考え、商品は各商店からサービスクレジット券をいただくことにしました。当たったサービスクレジット券で来客も増える、という効果も考えました。

実行委員会を設け、十三年六月から毎月五日を「ゴミニケーションの日」として、「お楽しみ抽選会」を行ってアルミ缶回収を実施。三年間のアルミ缶回収で得た収益七〇万円と町からの補助金などを合わせて、十六年六月に商工会の敷地内に空き缶回収機を設置しました。投入口から缶を入れると、自動的にアルミとスチールに振り分けられます。三個で芳

賀町のポイントカード「ひばりカード」に一ポイントがつき、カードが満額になると五〇〇円の金券として商店で買い物ができます。一カ月の回収量は一万七〇〇〇〜二万三〇〇〇個。女性部員を含めた一三名のボランティア「ひまわりリサイクル会」が、当番制で回収作業や回収機の清掃を行っています。

## 環境への取り組みについて

三重県長島町商工会女性部 伊藤美佐子

私たち長島町商工会女性部が、平成十三年度に桑名郡の商工会女性部と合同で始めたペットボトルを回収するという環境問題への取り組みは、今、廃食油からの石けん作りに移りつつあります。町でも資源ごみの回収を始めたので、ペットボトルの回収は、町にお任せしたのです。

長島町は三つの大きな川に囲まれ、その川から多くの恩恵を受けてきましたが、家庭から流れ出る排水で川は汚れ、魚も少なくなりました。少しでもきれいな川に、そしてゴミの減量化を促進できればと、廃食油による石けん作りを始めたわけです。

口コミで廃食油を回収、そして二カ月に一度の割合で役員と部員十数人が商工会の駐車場に集まり、楽しいおしゃべりとともに石けんを作ります。

はじめのうちは失敗の連続でしたが、今ではパンダや熊などの模様が浮き上がった子供たちにも喜んでもらえる石けんができるようになりました。

ワイシャツの襟や袖口、靴下など汚れた部分に石けんをすり込んでから洗うと汚れが落ちますし、台所の流しやレンジなどはビツクリするほどきれいになります。

試行錯誤してできた石けんを年に二回、春と秋に長島町の「輪中の郷」で行われるイベントや商工会主催のふれあいまつりなどで販売しています。

## 商工会女性部は私のお母さん

岡山県川上村商工会女性部 泉 千秋

岡山県北の蒜山ひるぜん高原で、ペンションを経営して今年で一〇年になります。大阪から引越してきて、誰一人知り合いがいない孤独の中での出発でしたが、商工会女性部に誘っていただいたことで、地域に溶け込むことができました。土いじりが苦手なのですが、肩が触れ合うほどの近さで苗を植えたりする女性部の花いっぱい運動の作業は、知らない人とも親しくなれて大好きです。

交流だけでなく、さまざまなことを学び、吸収もできました。研修会も新鮮でした。津山市のバル横丁で、古くからある酒屋さんを改装して、小さなスペースに分けて、月二万円ほどの家賃でお店が出せるようになっていました。輸入品のアクセサリーの店や骨董品店、夕方だけ開くネイルショップなど、魅力的なところでした。小さな力の寄せ集めが、かえって個性あるわくわくする世界を作ることを見せてもらいました。

それが忘れられず、三年ほど前、クラブ好きな仲間八人で、建物も自分たちで作った小さなお店を始めました。土・日だけ交代で店番をして、私もそこでオフシーズンに作ったガラス細工を売っています。

川上村商工会女性部というお母さんに育ててもらって、自分のことばで話せるようになりました。温かく見守ってもらいながら、自分の足でしっか

りと立ち、外の世界へも歩いていこうと思います。

## 子供の食育は命の安全

福井県三国町商工会女性部 辻田朝子

食育は、「食を育てる」と書き、知識を豊かにする智育、丈夫な身体を作り、運動能力を高める体育とともに、大変重要なことといわれています。

坂井地区女性部もこの食育を取り上げ、「朝ご飯を食べて脳に、スイッチオン・一日いきいき元気に過ごそう」のキャッチフレーズで部員から献立を公募し、約二〇種類のメニューを作りました。調理方法や写真をつけ、「ママのとっておき簡単朝食レシピ」として作成したところ、地元の新聞やテレビで紹介され、大きな反響を呼びました。

四月には、小学校に入学する児童のお母様方の朝食作りの参考になればと思い、各小学校に配布をお願いしたところ、大変好評で、全学年にぜひ配布してほしいと要望がありました。部数の関係で配布することができませんでしたが、三国町商工会の会報に掲載いたしました。

子供の安全も大事です。私たちは地元の小学校で朝の声かけ運動を行いました。「おはようさん。ちやんとご飯食べた？」と声をかけますと、恥ずかしそうに学校に走り込む子、はじけるような笑顔で返事をする子、いろいろな子供たちとの触れ合いは楽しいひと時でした。

かけがえのない子供たちが安心して生活できる環境を、行政だけに頼るだけでなく、私たち商工会女性部のきめ細やかにして情けあるおばちゃんパワーで作り上げていこうと考えています。